

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語科】

1. 対 象 1年生

- ・これまでに、「竜」「空中ブランコ乗りのキキ」で登場人物の相互関係を、「字のない葉書」で登場人物の心情を描写から捉える学習をしている。描写から人物の心情を読み取ることを得意とする生徒が多い。
- ・中学校では、今回初めて古文に触れる。小学校6年生では古文「枕草子」を学習しており、音読を通して古文の言葉の響きやリズムに親しむ活動をしている。

2. 単元名 『竹取物語』の魅力を紹介しよう（全7時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	音読に必要な文語の決まりを知り、古文を音読し、古文特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。（(3)ア）
思考力、判断力、表現力等	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。（C(1)オ）
学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。

4. 本時の目標

竹取物語をあらすじをもとにサブタイトルとして一言でイメージ化した生徒が、人物の心情の変化や人物の行動の意味、描かれている世界の比較などの観点で竹取物語を読み込むことを通して、あらすじに加えた要素をいれながら、竹取物語の主題についてまとめることができる。

5. 授業展開【本時・単元】

解決したい課題や問い

竹取物語の主題はなんだろう。

考えるための材料

古文「竹取物語」 ・本文・現代語訳 ・解説文、便覧・タブレット	ヒントカード	単元の振り返り用紙 ・毎時間の評価基準をループブックで記したもの
想定される活動	想定される活動	想定される活動
・登場人物の行動描写を根拠に、心情を捉える。	・竹取物語に描かれている世界観や人物の変化を読み取る。	・単元と毎時間の目標を具体的に捉え、学習の見通しをもつ。 ・振り返りを行い、次時に向けて自分の学びを確認する。

対話と思考(対話を通した協働的な問題解決のプロセス)

※設定する対話の方法

- ・1時間の授業の中で役割分担をし、便覧やタブレット、図書室の本を駆使しながら、ヒントカードに書かれている問いについて追究する。
- ・それぞれが追究した問いについて、共通点を探しながらキーワードでまとめる。

※対話や思考のプロセス

- ・5人の貴公子は、ずるをして失敗する。
 - ・翁はお金持ちになって裕福な暮らしをしている。
 - ・地上世界は、「汚いところ」といわれている。
- キーワードは、人間の愚かさ・人間の弱さなどかな
- ・天の羽衣を着ると感情がなくなる。
 - ・月の世界は、悩まない。感情もない。

- ・帝とかぐや姫は手紙のやりとりをしながら、愛情を育んでいった。
- ・かぐや姫は月に帰りたくなかった。
- キーワードは、人間世界のよさ・感情・人間のよさなどかな。
- ・翁はかぐや姫と別れて病んでしまった。
- ・帝は、かぐや姫がいなくなった世の中だから、不死の薬を燃やした。
- ・最後バッドエンドのほうか、残された人の悲しみが際立つな。
- キーワードは、大切なもの・出会いと別れ・愛情の素晴らしさなどかな。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・竹取物語の主題は、出会いと別れだ。なぜなら、帝や翁、貴公子など様々な人とかぐや姫が出会い、それぞれと別れるときの言葉や場面がたくさん書かれているからだ。
- ・竹取物語の主題は、悲しみだ。最初は悲しいのは姫のみだと思っていたが、貴公子や翁、帝など出てくる人物が共通して悲しみにふけているからだ。
- ・竹取物語の主題は、感情の大切さだ。なぜなら、月の世界は感情がなく悩み事も少ないが、地上にこだわったかぐや姫は、いろんな人と出会って、たくさんの感情を得たからだ。